

第三者意見

原子力機構 2016 への第三者意見

昨年に引き続き、第三者意見を述べさせていただきます。昨年は「環境報告書」でしたが、報告書の位置付けが変わったとのことで、タイトルも「原子力機構 2016」へ変わっています。

一読したところ、多岐にわたる事業を網羅し、細部にわたるまで一年間の活動がよくまとめられており、年次報告書としては、たいへんよくできていると感心しました。ネガティブ情報（「原子炉等規制法に基づき報告した事故・トラブル」など）もきちんと掲載されており、真摯な組織文化が伝わってきます。原子力機構の事業内容を知りたい、原子力事業に関わりたいという人々にはたいへん有用な情報ツールになっていると思います。

一方で、国民が高い関心を寄せる原子力行政の中核を担う研究機関として社会にどう向き合っているのか、組織の意志、あるいは、意気込みが伝わってこないもどかしさが残りました。

現代では私企業であっても企業の社会的責任（CSR：Corporate social responsibility）を強く意識してマネジメントシステムを構築し、様々な取り組みを行っています。原子力機構も当然、企業以上の危機意識をもって組織経営にあたっておられているはずです。ちなみに、CSRに関しては、ISO 26000（Guidance on social responsibility：社会的責任に関する手引）という国際規格があり、それに準拠してマネジメントシステムを構築、運用して取り組んでいる企業が多いと思いますが、本レポートを読み通してもこの規格を参照していることは読み取れませんでした。

もちろん、ISO 26000 は手引ですから、必ずこの規格に準拠しなければならないということはありません。しかし、この規格は CSR から Corporate（企業）の C を外し SR 規格とうたっています。社会的責任が求められるのは何も企業に限らないため、企業以外の幅広い組織が使えるようにするためです。つまり原子力機構にこそ利用してほしいガイドラインと考えます。もし原子力機構がすでに、ISO 26000 に基づき CSR に取り組んでいるならば、そのフレームで記載内容を整理すると SR マネジメントの全貌が理解しやすくなると思います。

ただ、分かりやすさ以上に伝えてほしいのは組織とそこで働く人々の意志であり、もっと言えば「熱意」です。いかに自分たちが社会的な課題や矛盾の解消に意欲的に取り組んでいるか、社会にとって必要な存在であるのか、企業以上に、もっと熱くアピールして欲しいと思います。

この様に、昨年より多々助言をさせていただいてはいるものの、国の機関であり、様々な法律や規制のもとに業務を行っている原子力機構が、外部の意見を反映し独自性を発揮できる余地がどれだけあるものなのか、疑問です。正確に数えてはいませんが、「国が定めた〇〇法、△△計画、□□方針に基づき、～に適切に対応」と記載されている箇所がかなりあり、中長期計画の最後に記されている「迅速かつ確かな意思決定と機動的・弾力的な経営資源配分を行う。」ことのできる、フレキシブルで闊達な組織というイメージをもちにくいのです。もっと、研究者の顔が見える「アウトリーチ活動」などにフォーカスして、人々の笑顔の写真やインタビュー記事を多くするなど、人が生き生きと働いていることを伝えてもらいたいと思います。

また、本レポートのところで「さらに詳しく知りたい方は」と URL が示されていますが、本レポートに記載することと充実したウェブサイトに掲載することをうまく切り分けて、研究開発のデータなど詳細はウェブサイト

にふってもらえば冊子はもっとすっきりして読みやすくなると思います。もちろん重要なことは両方に載せていただく必要があります。例えば理事長方針。誌面では 6 つの理事長方針のうち、「環境基本方針」と「原子力安全に係る品質方針」の二つしか掲載されていませんが、理事長方針は SR の根幹をなし、民間出身の理事長を迎えて経営の独自性を高めようとしている組織の本気度を示すものだと思いますので、他の 4 方針も誌面に載せていただきたいと思います。

また、P.46 では、「放射性気体廃棄物及び放射性液体廃棄物の管理」の項において、「一部の拠点の排水中に含まれる放射性物質には、福島第一事故により放出された放射性セシウムが含まれています。」と終わっていますが、この説明こそ今読者がもっとも具体的に知りたいことではないでしょうか。そこで終わらずに、もっと詳しい情報が掲載されることを、今後期待します。



(株) テクノファ 講師
(一社) 環境プランニング学会認定 環境プランナー-ERO

上原 健

第三者意見を受けて

今回いただいた第三者意見は、原子力機構とこのレポートに対する厳しいご指摘とともに、理解と温かい応援のエールを含むものと理解しています。外部の目から見た率直な意見ととらえ、今後のレポートづくりにおいて配慮していく所存です。

編集後記

原子力機構の活動を総合的にご報告するこのレポートを今年度初めて作成しました。乏しい経験ながら、各部署の協力を得て完成させました。

一方でまだまだ十分でない部分があることは認識しており、このレポートの改善に向け、関係各所のご協力を得て今後取り組んでいく所存です。またこのレポートだけでは伝えきれない部分はまだ数多くあると考えています。それらはホームページやさまざまなメディアなどを通して表現されていますので、ぜひそちらもご覧ください。